

目 次

- 「瀧口入道」と「偷盗」と友人のこと……………村 井 美代子 (1)
- 情報環境の整備及び情報教育の再考等について ……………上山 英 三 (4)
- 新規受入図書案内 (2003年 4 月～2003年 9 月受入分) …………… (7)

「瀧口入道」と「偷盗」と友人のこと

村 井 美代子

漢字を書くのが苦手だ。大体の格好は頭に浮かんでくるのだが、画数が多いと自信がなくなる。ごまかして書くので筆順がおかしくなる。「飛」という字を私が書くのを見た人は大抵妙な顔をする。字も汚い。「大人になればきれいな字になる」と小さい頃は思っていたが、大学に入ってから、ノートを借りにきた友人は皆二度と「貸して」とは言いに来なかった。今でも次の論文のアイデアが浮かんでメモにしても、後で判読できないことがある。走り書きで字が汚い上に、ひらがなとカタカナと英語が混じって自分でも読み取れない。幸い英語の教師をしているので黒板に漢字を書く機会は少ない、というより意図的に極力少なくしている。授業には電子辞書を持って行くが、切羽詰った時には広辞苑と漢和辞典が手元にあると安心したいためである。

たった26個のアルファベットの筆順を気にせず並べるだけで、無限に単語が出来る英語を中学校で学び始めた時から、漢字に対するコンプレックスは少し薄らいだ。相変わらず漢和辞典を引いても漢字はすぐに忘れてしまったが、英単語の綴りを覚えることは苦痛ではなかった。今でも黒板の変な格好の漢字や書き順を見て、「帰国子女ですか」と真剣に尋ねられて落ち込むことはある。が、パソコンを使えばなんとかなるし、「挨拶」や「躊躇」がすらすら書けなくても英単語を知っているからいいか、と前向きにとらえることにしている。

書くのは苦手だが、読むのは大好きである。書けないくせに漢字が多くて読みづらい美文調や擬古文調の文章が好きだ。中学生になったばかりのころ、母親が「もう捨てる」と言ったダンボール箱一杯の本を無理に貰った。文庫本が多かったが、昭和一けた生まれの母が結婚前に読んでいた本なので、ほとんど旧仮名遣いだった。夏目漱石もロマン・ロランも、所々飛ばし読みしながらのろのろと旧仮名遣いで読んだ。どの本も変色や傷みが激しいため少しずつ新しい本に買い換えたが、旧仮名遣いが消え、読みやすい当用漢字ばかりになると何となく頼りなく、別の作品を読んでいるようで寂しかった。

高山樗牛の「瀧口入道」は、この反故の中にあつた。「平家物語」に語られる、平重盛に仕えた瀧口の侍齊藤時頼と、建礼門院の雑仕横笛の恋物語である。平清盛の花見の宴で舞を披露した横笛に時頼は一目惚れするが、身分違いゆゑに横笛は時頼の思いに応えられない。世を憐んだ時頼は武士として囑望された将来を捨てて出家する。全篇独特の美文調だが、なぜかこの作品が非常に好きになつた。「やがて來む壽永の秋の哀れ、治承の春の樂みに知る由もなく、六歳の後に昔の夢を辿りて、直衣の袖を絞りし人々には、今宵の歡會も中々に忘れぬ思寢の涙なるべし」という冒頭部や、口さがない女房たちがつれない横笛を執拗に責める言葉、「罪造りの横笛殿、可惜勇士を木の端とせし」などは暗記してしまうほど讀んだ。

今手元にある岩波の文庫本を見ると、繰り返し読み始めたのは高校に入る前ぐらいらしい。高山樗牛はこの作品を大学一回生の時に新聞社の歴史小説の懸賞応募作品として書き、二等をとつた。当時すでに漢字が悲しいほどに書けなかつたので、「大学生になったら何でもできるようになる」という幻想はこの樗牛の作品を讀んで抱くようになったのかもしれない。書くこともできないのに古めかしい語彙だけは異常に豊かになつた。19世紀末のヨーロッパでは、近づく男を破滅させる“femme fatale”という絶世の美女のイメージが絵画や文学作品に多く現れた。自分が美しさとは無縁であることをすでに認識していた当時、こういう概念は勿論知らなかつたが、その原型と言えるような横笛と、この美女を重厚に語る美文に強く惹かれたのだろうか。

漢字を書くのが苦手なのは相変わらずだったが、その後英文学を専攻して文献も英語で讀むことが多くなり、幸いにも英語で文章を書く機会が増えた。日本語でものを讀む時にも商売気が顔を出し、研究のヒントになりそうなものばかり選んでしまい、純粹に文字を追うことが好きだから讀むということは以前に比べると少なくなつてしまつた。だが毎年暑い季節になると「偷盜」が讀みたくなる。

中高生の夏休みの課題図書のように氣恥ずかしいが、これは芥川龍之介のいわゆる「王朝もの」の一篇で、蓬原が広がり死臭の漂う京を舞台に、羅生門に集う盜賊たちの或るうだるように暑い夏の昼下がりがから夜半までを描いた短編である。洛中を擾がせる盜賊の頭沙金は、「恐ろしい野性と異常な美しさ」が一つになつた容貌に、日の光に艶やかな青みが浮く見事な黒髪をした女で、盜賊仲間は勿論義父までも虜にし、最後に斬殺される。

「偷盜」を教えてくれたのは大学の入学式で知り合つた友人である。私の「瀧口入道」同様、この友人も「偷盜」の一節を暗誦できるほど讀んでいた。彼女もまたfemme fatale的の沙金と、この美女を頭とした盜賊の蠢く平安京を描く芥川の筆致が好きらしかつた。ただ私と違つてこの友人の漢字を書く能力は驚異的だつた。東洋史の講義中、板書の漢字の多さに辟易する私の横で、彼女は「項羽」でも「劉邦」でも「袁世凱」でも、苦も無くすらすら書いていた。勿論私は東洋史の単位はもらえなかつた。退屈な授業中私が机に「ちみもうりょうがばっこする」と書くと、彼女はあつという間に「魑魅魍魎が跋扈する」と変換してみせた。「薔薇」でも「檸檬」でもどんなに複雑な漢字でも漢和辞典のように完璧に書いてみせたのに、なぜか英語は絶望的に讀めず話せなかつた。英語の授業で指名の順番がまわつてきそうな日は、私が日本語訳を口述するのを（私の字では讀みづらいので）テキストに必死に書きとめて授業に出ていた。彼女は迷つた末に苦手意識を克服しようと英文学を専攻したのだが、英語で書く数十枚の卒論が仕上がらず、友人数人と締切日当日まで手伝つた。卒論の試問で余りにひどく詰問されたショックで、彼女は卒業するまで主任教官に会つた後は必ず頭痛や腹痛を訴えていた。いくら努力しても絶対に越えられない、天敵のような何かが各自にあるものだということをこの頃痛感した。

在籍していた大学は男子学生の数が圧倒的に多かったので、彼を見つけるのは誰でも簡単だった。だがこの友人は同年代の男の子には目もくれず、入学直後から大学付近の飲食店主のもとに通いつめ、一回生の夏には半ば同棲状態になった。この男性は当時の私たちの父親ぐらいの年齢で、何度か結婚し、色々な職を経ている人だったように思う。一緒に厨房に入り、帳簿をつけ、経営に口を出し、店の奥で雑魚寝したり、ホテルに泊まったりして大学に出てくる彼女を見ていると、授業の合間に大学構内で待ち合わせ、喫茶店でとりとめのない話をして別れ、休日には映画館や水族館というワンパターンなデートしかできない私たちの恋愛が仔犬の恋に思えた。二十歳前後では当然のことながら、経済力も社会的経験も何も無いくせに理屈ばかりこねる同年代の男友達が頼りなく見えて、相手には何の罪も無いのにいらいらした。

夏になると「偷盗」を読みたくなるのは、この作品が、蒸し暑い7月の炎天の大路小路を鮮やかに描いているからなのだろう。猪熊や綾小路、四条坊門や朱雀など聞き慣れた地名を辿りながら、すっかり様変わりした現在の京都の辻々を、遙か昔の夏の宵に夜盗が疾駆する様子を想像するのが楽しいからなのだろう。だが何よりも「偷盗」を知ったのが暑い暑い夏だったためだろうと思う。学生が帰省し、大学付近の飲食店がどこも閑散とする夏休みになると、例の友人を含めて一回生の頃から私たちは数人でよく旅行に出かけた。全員貧乏だったので日本各地を節約旅行し、炎天下をひたすら歩き回った。蝉の声が凄まじい九州のどこかの町をのろのろ歩きながら、私は「瀧口入道」を褒めちぎり、友人は「偷盗」を褒めちぎった。

毎年夏になると何となく思い出して書架から「偷盗」を取り出し、読み終わるとまた次の年まで適当に片付けていたが、この夏は読みながら色々なことを思い出した。在籍していた大学も大学院も、その後勤めた大学でも、まわりは圧倒的に男性が多かった。大学時代の友人も女性はほんのわずかだし、教壇に立ってから担当したほとんどのクラスにも女子学生は数えるほどしかいなかった。四月に三重短期大学の入学式に出席し、当たり前のことなのだが圧倒的に多い女性を見て非常に驚いた、と同時に何かとても懐かしい気がした。この夏「偷盗」を読んで今は各地にばらばらになった大学時代の友人に連絡をとりたくなったのも、身を置く環境が少し変わったせいかもしれない。

例の友人は年上の彼との卒業後の結婚生活と、その後の飲食店経営の予定まで語っていたが、四回生を目前にして急に「公務員になる」と猛勉強し始め、めでたく合格すると彼とはさっさと別れ、職場で知り合った人と半年後に結婚した。私は何か釈然としないまま結婚式に招かれ、受付係をさせられ、おめでとうのスピーチをした。それから2年とたたないうちに「別れた」と言ってきたが、その1年後には次の旦那さんを見つけた。これも1年ほどでうまくいかず、数年前にまた結婚した。例の飲食店のオーナーを含め、彼女の夫や恋人だった人たちが皆その後体調を崩していると聞いたので、私は内心「femme fataleの再来か」とわくわくしていたが、最近久しぶりに彼女に会ってそんな思いは消えてしまった。幼い二人の娘を追いかけて回す友人は、彼女曰く「幸せ太り」で以前の華奢な体型の数倍ほどの立派な体格になり、少々のことでは動じない堂々たる母親ぶりだった。「今が一番幸せ」という彼女を見ていると、やはりfemme fataleは文学の世界だけに存在するものだろうかとも思う。彼女は今でも「偷盗」と「瀧口入道」を時々読むと言っている。歳月が流れ、様々に環境が変わっても、感性の核になるものは不変であるように思える。娘たちを英語の幼児教室に通わせるつもりらしい友人は、相変わらず見事に漢字を書き、私は相変わらずパソコンに頼りきって執筆している。天敵もまた不変なのだろう。

情報環境の整備及び情報教育の再考等について

上山英三

私が三重短大に赴任してきて約半年経ちました。その間、私は学内の情報環境および情報教育の状況把握に努めてきました。その中で、この件に関する様々な懸案事項が浮上し、私は自身の責務の大きさを痛感することになりました。ここでは、それらの懸案事項を列記し、それらに対する私のこれまでの取り組みと今後の対応方針を記すことに致します。大きな項目として、情報環境の整備と情報教育の再考があります。

○情報環境の整備

多数の方々が、これまでに三重短大の計算機環境の整備にあたってこられました。その方々のご尽力のおかげで現行のシステムが大きなトラブルもなく運用できています。しかし、この分野の技術革新は急速に進行していますし、一方でネットワークの安全性を脅かすウィルス等の種類や発生頻度も（迷惑な話ですが）増加しています。このように急速に変化しつつある情報社会の情勢の下で、本学での計算機環境も日々より良いものに刷新されていく必要があります。そこで、以下、これに関するトピックを2つ、順を追って説明します。

1. 計算機ネットワークの整備と運用・メンテナンス：これは2つの小トピックから成ります。

① 学内無線LANについて：いわゆるインテリジェントビルというものがもてはやされた時期がありました。これは有線の計算機ネットワーク回線が隔々まで整備された建物だと考えて頂いて結構です。もちろんこの建設にはそれなりの費用がかかりますし、一旦出来上がった建築物をインテリジェント化するのにも多くの費用が必要になります。また、工事等による入居者への障害も生じます。一方、ネットワークを一部無線化することによって大掛かりな工事を必要とすることなく既存のネットワークを拡充することができます。このような無線LANについては、家庭用にも規模の小さなものが普及し始めています。このメリットは既存の建築物に対しても比較的安価にネットワーク環境を拡充できることであり、本学もこのシステムの導入を検討することになりました。これまでは、実習室や各教官の居室にのみネットワークケーブルが敷設されていましたが、このケーブルを講義棟3・4階等これまでケーブルが敷設されてこなかった場所にまで延長し、無線で情報をやり取りするためのターミナルを適切な場所に設置します。そのターミナルを通して、個人の所持する無線LAN端子を備えた携帯型パソコン間でのデータの授受が可能になります。もっとも、これに伴うデメリットもあります。真っ先に浮上するのがセキュリティーの問題です。学外に電波が及びうるということもありますが、学内にパソコンを持ち込んだ部外者が簡単にネットワークにアクセスできるようでは困ります。また、個人所持のパソコンからウィルスが持ち込まれるという危惧も拭えません。このような問題を念頭に置きつつも、本学のネットワーク管理に係わる業者の方とも連携して、無線LANの実現を目指したいと考えています。

② 学外からのリモートアクセスについて：ある先生から「学会等ほど出張した際に、短大のサーバに届いた自分宛の電子メールを出先から読みたい」という要望がありました。これについては私も同様の要求を持っています。また、電子メールの使用だけでなく、自宅から遠隔操作で学内のサーバへアクセスしたいという私自身の要求もあります。

Telnet等を通して学内のサーバにアクセスできなくもないですが、セキュリティーホールの危惧から現状では高いセキュリティーレベルを維持するために、アクセスが制限されています。実はこのファイアウォールにおけるセキュリティーレベルの設定は私の管轄外にあります。つまり、学外へのネットワークの接続を管理している業者の方にファイアウォールの設定をして頂いております。私は業者の方との窓口業務を行うこととなります。ご要望がございましたらお教え下さい。

2. 学生個人のデータ保存方ならびに情報発信について：これは3つの小トピックから成ります。

- ① 学生個々へのメールアドレスの配布について：本学の学生総数は700名近くに上ります。全員のアカウントの作成と年度毎の追加と削除という作業を、限られた人員で行うことは事実上不可能です。サーバのディスクの容量にも限りがありますし、メールを通したウィルスの影響を受ける可能性も大きくなります。当面はアドレスの割り当て数を限定するという案を採用したいと思います。
- ② 学生個人や教職員及び自治会等の組織のWebページ公開について：現状の方向としては、Webサーバ上に公開を希望する人や組織のアカウントを作成してアクセス権を制限することで、他者によるページの改ざんを防ぐという方法をとることにします。アカウント名とパスワードを入力することで、FTPソフトを通じて各自更新が可能になります。コンテンツをお持ちの方でそれを公開することを希望する方は私にお知らせ下さい。Apacheの設定ができれば公開にこぎ着けたいと思います。
- ③ データの保存方式について：情報処理実習室の端末のうち、フロッピーディスクドライブにアクセスすると、アクセス不能であるだけでなく、ディスクの初期化を余儀なくされるものがありました。その端末を業者の方に見ていただいたところ、やはりディスクドライブが故障していたとのことで、それを修理して頂きました。このことが現状のデータ保存方式を見直すきっかけになりました。代替案の1つとしてUSBメモリの活用も考えましたが、「ハードウェアの追加と削除」を正しく行わないとシステムを破損する恐れがあります。そこで、ファイルサーバを用意することも検討する必要性が出てきました。私の部屋にあるWindowsベースのサーバに200GB程度の外部記憶を増設してそれらをファイルサーバとして代用することも1つの選択肢になっています。

○情報教育の再考

本学の情報教育のカリキュラムは、他に比べて遜色ないと思います。ただ、改善すべき余地は多々あると思います。これに関する2つのトピックを以下で順を追って説明します。

1. 短大における情報教育の拡充について：これは2つの小トピックから成ります。

- ① 情報関連科目について：本学の情報教育科目としては、「情報処理実習Ⅰ・Ⅱ」、「情報と社会」、「情報と科学」があります。「実習Ⅰ」と「情報と社会」は情報化社会に必須の情報リテラシーとネット上のセキュリティー知識及びエチケットを扱うものです。これらの必要性についてはご理解頂いているためか、多くの方に履修して頂いています。一方、より突っ込んだ内容になる「実習Ⅱ」と「情報と科学」については、履修者が少ないことから、あまり興味を持って頂けていないのではないかと危惧されます。より深い内容の情報科目についても分かりやすく解説し、興味を喚起する努力をせねばと思います。もしこの努力が実って、「教養」としての情報教育から「専門知識」としての情報教育への要望が増せば、関連科目の増設等を考える必要が出てくると思います。

- ② 情報処理教育関係の図書・雑誌について：自然科学の枠で情報関連の図書を図書館に納入して頂いております。皆様に大いに利用して頂きたいと思っております。また、初級ネットワーク管理者向けの雑誌「UNIX User」の定期購入も検討して頂いております。
2. 大卒業後の進路に対する準備について：これも2つの小トピックから成ります。
- ③ 就職に役立つ資格の取得支援について：専門学校と協力して、就職に有利になる情報処理関連の資格取得をサポートできないかと考えております。私は学生時代に第一種・第二種情報処理技術者という資格を取得しましたが、今となっては古びた資格となってしまいました。そこで、現在必要とされる資格の種類と、それらの難しさを把握せねばと思っています。また、資格の有無に拘らず、情報関連の知識、特にネットワーク管理に関する知識・技術を持った人を採用したいと思っている企業もあるようです。そこで、そのような企業に就職を希望する方の支援もできないものかと思案しています。
- ④ 四年制大学への編入について：私は編入学委員でもあるのですが、編入学先として情報関連の学部・学科が見当たらず、少々残念な気がします。ひょっとしたら、編入希望を持ちながらも理科系科目への恐怖心から躊躇している方がいるのではないかとも思います。このような方々については、可能な範囲で後押ししたいと思います。

以上、情報環境と情報教育について述べてきましたが、その他に述べておきたいこととして「Windows（に依存すること）の是非」があります。これは情報環境・教育の両面に関係する問題です。03年8月にWindows XP, 同2000等のセキュリティーホールを狙ったウィルス（ワーム）でのMSブラストが世界中を騒がせました。その後もこの系統のOSのセキュリティーホールが見つかり、修正プログラムが発表されるという事態が後を絶ちません。そこで、「そもそも特定の企業の一企業の、しかもソースプログラムの公開されていない（ブラックボックスの）OSに依存する現在の状況が正常なのか？」という疑問が常に浮上してきます。公官庁の計算機システムのOSをオープンソースであるLinuxに移行させる動きがあるとの新聞報道もありますし、余談になりますが、東京大学では千のオーダーでアップル社製のコンピュータを納入したとのこと。この件に関する危機感が表面化した結果とも考えられます。もっとも、当のマイクロソフト社もパソコン以外の情報家電や携帯端末市場を睨んでのことか、トロン陣営と提携するという意外な発表もしています。今後の動向が気になる所です。

以上、余談もありましたが、情報環境と情報教育等に関する現状と課題を述べさせていただきました。そして、その課題の克服に着手せねばという思いを新たにしました。ただ、なにぶん手探りの部分も多く、他の動向の調査や業者の方との協議・折衝も必要になってきます。様々な困難が予想されるため、上記の課題遂行が遅れがちになることもあると思われます。その際は皆様より催促頂けるとともにご助力頂ければ幸いに存じます。

新規受入図書案内
(2003. 4~2003. 9)

総記(000)

〈岩波新書〉	
アフガニスタン	渡辺 光一
西園寺公望	岩井 忠熊
テレビの21世紀	岡村 黎明
龍の棲む日本	黒田 日出男
「都市再生」を問う	五十嵐 敬喜
新聞は生き残れるか	中馬 清福
リストラとワークシェアリング	熊沢 誠
クジラと日本人	大隅 清治
豊かさの条件	暉峻 淑子
俳人漱石	坪内 稔典
宇宙人としての生き方	松井 孝典
「心のノート」を考える	三宅 晶子
情報は誰のものか	筑紫 哲也
多文化世界	青木 保
奈良の寺	文化財研究所奈良文化財研究所
映像とは何だろうか	吉田 直哉
江戸の絵を愉しむ	榊原 悟
ブッシュのアメリカ	三浦 俊章
ロシアの軍需産業	塩原 俊彦
活字の海に寝ころんで	椎名 誠
痴呆を生きるということ	小沢 勲
外務省	薬師寺 克行
日本の税金	三木 義一
飛鳥	和田 萃
鞍馬天狗	川西 政明
未来をつくる図書館	菅谷 明子
絵のある人生	安野 光雅
新撰組	松浦 玲
帝国を壊すために	Roy Arundhati
シラクのフランス	軍司 泰史
都市と日本人	上田 篤

〈岩波ブックレット〉

どう乗り切るか市町村合併	大森 彌
ホームレス問題何が問われているのか	小玉 徹
デフレ論争のABC	小此木 潔
誰もがその人らしく男女共同参画	

21世紀男女平等を進める会

民間人も「戦地」へ	吉田 敏浩
地雷と人間	地雷廃絶日本キャンペーン
不法投棄はこうしてなくす	石渡 正佳
消費者のための食品表示の読み方	安田 節子
子どもたちのイラク	

日本国際ボランティアセンター

終わらない戦争	Dewit, Andrew
ルソン島戦場の記録	沢田 猛
平和を創る発想術	altung, Johan,
ネット上に学びの場を創る	新井 紀子
「イラク」後の世界と日本	姜 尚中
図解Windows OSのしくみ	松本 剛
情報処理入門	佐藤 東九男
社会情報論	桑原 尚子
人間と情報	石川 幹人
Linux	Strobel, Stefan,
ニューロコンピューティングの周辺	松本 元

哲学(100)

カウンセリングとは何か	平木 典子
カウンセリングの原理	国分 康孝
よくわかる臨床心理学	下山 晴彦
アニミズムという希望	山尾 三省
歩行禅	松尾 心空
ウェルビーイングの発達学	祐宗 省三
工科系のための心理学	柴山 茂夫
心理学的知覚論序説	柿崎 祐一
ケアの本質	Mayeroff, Milton
「聴く」ことの力	鷲田 清一
道徳性心理学	日本道徳性心理学研究会
ケアリング	Noddings, Nel
エリクソンの人間学	西平 直

歴史(200)

台湾	若林 正丈
フランス世界遺産の旅	山田 和子
京の離宮と御所	原畑 由美子
ヨーロッパ宮殿物語	井上 宗和
英国で一番美しい村々・コッツウォルズ	辻丸 純一
イタリア古都紀行	渡部 雄吉

社会科学 (300)

就職活動始めるブック 就職情報研究会
 就職活動こんなときどうする事典 就職情報研究会
 世界食文化図鑑 Ward, Susie
 特色ある教育活動の展開のための実践事例集 文部省
 社会科中学生の地理 指導書 帝国書院編集部
 民事訴訟法入門 林屋 礼二
 国際法から世界を見る 松井 芳郎
 国際法 松井 芳郎
 朝日新聞ジャパン・アルマナック
 朝日新聞社出版本部事典編集部
 日本の産業革命 石井 寛治
 自由とはなんだろう 桂木 隆夫
 出会いと別れの原風景 野本 三吉
 三重県中学校教員採用試験最多出題問題
 教員試験問題研究会
 最新商法キーワード90 商法用語選定委員会
 新社会人のお金の基礎知識 日向野 幹也
 クレジットカード犯罪トラブル対処法 末藤 高義
 二十世紀の法思想 中山 竜一
 他者への自由 井上 達夫
 子ども理解とカウンセリングマインド 青木 久子
 プレップ新民事訴訟法 小島 武司
 訴訟のはなし 兼子 一
 民事裁判入門 中野 貞一郎
 やさしい民事訴訟法 飯倉 一郎
 民事手続法入門 佐藤 鉄男
 現代の裁判 市川 正人
 裁判とは何か 萩原 金美
 経済学者たちの闘い 若田部 昌澄
 マクロ経済学パーフェクトマスター 伊藤 元重
 経済学入門 井原 哲夫
 経済学はいかにして作られたか?

矢沢サイエンスオフィス経済班

図表でみる教育 経済協力開発機構 (OECD)
 アジア政治を見る眼 岩崎 育夫
 家族を容れるハコ家族を超えるハコ 上野 千鶴子
 偏見から共生へ 藤井 克彦
 たたかうマイホーム 藤原 智美
 収益増と経路依存 Arthur, W. Brian
 コールバーグ理論の基底 佐野 安仁
 指導要録の改訂と学力問題 田中 耕治
 学校を変える、子どもが変わる 滝 充
 知ることの力 松下 良平

教育の方法 佐藤 学
 新しい教育評価の理論と方法 理論編 田中 耕治
 新しい教育評価の理論と方法 教科・総合学習編
 田中 耕治
 現代教育学のフロンティア 加賀 裕郎
 道徳教育 藤田 昌士
 中学校社会科授業ディベートの理論と方法
 成田 喜一郎
 教科と総合に活かすポートフォリオ評価法
 西岡 加名恵
 学力評価論入門 田中 耕治
 世界の道徳教育 押谷 由夫
 子どもたちとつくりだす道徳的なクラス
 DeVries, Rheta
 総合学習とポートフォリオ評価法 田中 耕治
 「総合的な学習の時間」に行なう「心の教育」
 滝 充
 モラルジレンマ資料と授業展開 小学校編
 荒木 紀幸
 モラルジレンマ資料と授業展開 中学校編
 荒木 紀幸
 こころのノート 小学校1・2年 文部科学省
 心のノート 小学校3・4年 文部科学省
 心のノート 小学校5・6年 文部科学省
 心のノート 中学校 文部科学省
 「総合学習」の可能性を問う 田中 耕治
 教育役割くずし試論 岡田 敬司
 コミュニケーションと人間形成 岡田 敬司
 教育愛について 岡田 敬司
 ピアジェ理論と幼児教育の実践 上・下
 DeVries, Rheta
 道徳性の発達と道徳教育 Kohlberg, Lawrence

自然科学 (400)

栄養士・管理栄養士まるごとガイド 香川 芳子
 カレーな薬膳 渡辺 玲
 煮物・焼き物 日本給食指導協会
 揚げ物・そのほか 日本給食指導協会
 食をコーディネートする 金子 佳代子
 ゼロから学ぶ数学の1、2、3 瀬山 士郎
 ゼロから学ぶ物理の1、2、3 竹内 薫
 基礎の生化学 猪飼 篤
 これでわかる水の基礎知識 久保田 昌治

水の書 荒田 洋治
 臨床調理 玉川 和子
 糖尿病・肥満・高脂血症・腎臓病の人のための食事の基礎知識 二宮 陸雄
 生き物をめぐる4つの「なぜ」 長谷川 真理子
 老化と生活習慣 香川 靖雄
 健康の語られ方 柄本 三代子
 栄養のキホンがわかる本 舛重 正一
 「歩き方」ひとつで生き方が変わる 駒崎 優
 簡単にできるフットケア健康法 五十嵐 康彦
 発達健康心理学 萱村 俊哉
 脳と栄養 斎藤 昌之
 死の四重奏とよばれる生活習慣病 北村 聖
 体のしくみを理解するための解剖生理学 相澤 徹
 ライフステージの栄養学 武藤 静子
 環境・スポーツ栄養学 金子 佳代子
 道具としての物理数学 一石 賢
 水の話・十講 鈴木 啓三
 生命40億年全史 Fortey, Richard A.
 健康教育ナビゲーター 渡辺 正樹
 運動とストレス科学 竹宮 隆
 糖尿病 糖尿病と血管障害に関する研究会
 食環境問題Q&A 加藤 不二男
 新ウェルネス栄養学 西原 カ
 ライフスキルのための健康科学 成 和子
 カラー基本生理学 Berne, Robert M.
 カラー人体解剖学 Martini, Frederic H.
 赤ちゃんと脳科学 小西 行郎
 生化学実験 林 淳三
 科学英語を書く 山口 喬
 システムバイオロジー 北野 宏明
 食べられる野生植物大事典 橋本 郁三
 エッセンシャル人体の構造・機能と疾病の成り立ち 奈良 信雄
 脳神経科学 金澤 一郎
 顕微鏡フル活用術イラストレイテッド 稲澤 譲治
 分子生物学実験の基礎 中山 広樹
 遺伝子解析の基礎 中山 広樹
 本当にふえるPCR 中山 広樹
 苦労なしのクローニング 真壁 和裕
 タンパクなんてこわくない 西方 敬人
 すくすく育て細胞培養 渡邊 利雄
 暗号の数学的基礎 Coutinho, S. C.
 プロテインバイオテクノロジー Franks, Felix,
 糖鎖の科学入門 岩瀬 仁勇

新薬理学入門 柳沢 輝行
 地球温暖化 伊藤 公紀

工学・技術 (500)

「おかずの素」でもっとおかずを 松本 忠子
 春のおかず 農山漁村文化協会
 ほんのひと口、しあわせ和菓子 松井 ミチル
 生活の経営と福祉 長嶋 俊介
 砂糖の世界史 川北 稔
 環境と健康 安井 至
 統環境と健康 安井 至
 スポーツグッズの科学 小山 義之
 ダイオキシシン 渡辺 正
 環境問題へのアプローチ 有田 正光
 ヘルスフード科学概論 矢澤 一良
 乾物のおかず 農山漁村文化協会
 空間演出 日本建築学会
 藤森照信の原・現代住宅再見 藤森 照信
 建築MAP東京 ギャラリー・間
 眼を養い手を練れ 宮脇塾講師室
 図解居住バリア・フリー百科 日比野 正己
 白と茶色のインテリア 成美堂出版編集部
 子ども部屋 SSコミュニケーションズ
 環境ホルモンと人類の未来 吉沢 逸雄
 和風旅館建築の美 宮本 和義
 西洋建築様式史 熊倉 洋介
 対訳日本人のすまい 平井 聖
 日本の建築と町並みを描く 穂積 和夫
 日本人の椅子 鈴木 恵三
 高齢者・障害者のための住居改善 馬場 昌子
 日本の町並み 西村 幸夫
 拡張型博物館 建築思潮研究所
 保育園・幼稚園 建築思潮研究所
 特集ごみと地球温暖化 廃棄物学会
 環境問題の考え方 天野 明弘
 いい家は無垢の木と漆喰で建てる 神崎 隆洋
 インテリアコーディネーターハンドブック 技術編
 インテリア産業協会
 インテリアコーディネーターハンドブック 販売編
 インテリア産業協会
 図解Webサーバーのしくみ 津守 美弘
 図解ネットワークのしくみ 増田 若奈
 図解ネットワークセキュリティのしくみ ユニゾン

Zaha M. Hadid	二川 幸夫	近代椅子学事始	島崎 信
Richard Meier	二川 幸夫	外国人建築家の系譜	堀 勇良
Morphosis	二川 幸夫	色彩ガイドブック	佐藤 千佳
Bernard Tschumi	二川 幸夫	ヨーロッパの壁絵デザイン	松味 利郎
Alvaro Siza	二川 幸夫	椅子展	東京デザイナーズウィーク
Norman Foster	二川 幸夫	運動科学	小田 伸午
Ricardo Legorreta	二川 幸夫	日本人建築家の軌跡	田中 禎彦
ウォーター	De Villiers, Marq	近代の住宅建築	江面 嗣人

産 業 (600)

捨てるな、うまいタネ	藤田 雅矢
茶の世界史	角山 栄
「日本庭園」の見方	田中 昭三
京都名庭園	水野 克比古
スモールガーデン	井田 洋介
ヨーロッパ庭園紀行	勝井 規和
休暇村ウォーキングガイド	
	国政情報センター出版局
遺伝子組換え植物の光と影Ⅱ	
	横浜国立大学環境遺伝子工学セミナー

語 学 (800)

フランス語コミュニケーションの方法	Chamberlain, Alan
謎が解けるフランス語文法	Monnerie-Goarin, Annie
電話のフランス語トレーニング	中井 珠子
シャンソンで覚えるフランス語	野村 二郎
カタカナで引くスペリング辞典	研究社辞書編集部
からだことば辞典	東郷 吉男
VOA英語経済ニュースの聴き方	小林 敏彦

芸 術 (700)

運動処方指針	American College of Sports
日本の南画	武田 光一
オールド・ノリタケと日本の美	大賀 弓子
じっくり見たい『源氏物語絵巻』	佐野 みどり
運動生理学	前田 如矢
教養としてのスポーツ科学	
	早稲田大学スポーツ科学部
和物茶碗	林屋 晴三
黄金細工と金銅装	河田 貞
世界装飾図	Racinet, A.
文様博物館	Dolmetsch, Heinrich,
色の配色・イメージBOOK	五十嵐 博子
7日間でマスターする配色基礎講座	
	視覚デザイン研究所
インテリアデザイナーのための図でみる洋家具の歴史と様式	
	中林 幸夫
擬洋風建築	清水 重敦
幼児の有酸素性能力の発達	吉澤 茂弘
京暖簾	高井 潔

文 学 (900)

図説ファンタジー百科事典	Pringle, David
キャッチャー・イン・ザ・ライ	Salinger, J.D.
レイクサイド	東野 圭吾
リアルワールド	桐野 夏生